

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	平成27年度 第1回吉川市児童福祉審議会
開 催 日 時	平成27年11月17日(火) 午後6時00分から 午後7時45分まで
開 催 場 所	吉川市役所第2庁舎204会議室
出席委員(者)氏名	手塚崇子委員(会長)、田中公明委員、高井良奈緒美委員、五十嵐修委員、市川俊行委員、竹内真希委員、小針依莉子委員、熊木崇人委員
欠席委員(者)氏名	なし
担当課職員職氏名	子育て支援課 課長 岡田なるみ 子育て支援課子育て支援係 係長 木村みのり 子育て支援課子育て支援係 主任 城取直樹 保育幼稚園課長 戸張悦男 保育幼稚園課課長補佐兼施設運営係 係長 岡崎久詩 保育幼稚園課保育幼稚園係 係長 渡辺剛
会議次第と会議の公開又は非公開の別	1 開 会 2 委嘱式 3 市長あいさつ 4 委員自己紹介 5 会長選出 6 議事 (1) 子ども・子育て支援新制度及び吉川市子ども・子育て支援事業計画について (2) 吉川市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況報告について 4 その他 5 閉 会 ※ すべて公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	なし
傍聴者の数	なし
会議資料の名称	資料1「子ども・子育て支援新制度について」、資料2「吉川市子ども・子育て支援事業計画進捗状況報告について」、吉川市子ども・子育て支援事業計画、吉川市子ども・子育て支援事業計画概要版、子ども・子育て支援新制度なるほどBOOK
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録

会議録確認指定者	田中公明委員、高井良奈緒美委員
その他の必要事項	
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	<p>1. 開会</p> <p>開会の宣言</p> <p>2. 委嘱式</p> <p>吉川市長から委嘱書を交付。</p> <p>3. 市長あいさつ</p> <p>現在、市で「吉川市総合戦略」を策定中である。人口減少社会と言われている中で、吉川市は他市と比べると今後も人口が増え続けていくと想定されているまちである。</p> <p>そのため、総合戦略も市独自のものを作っていく必要があり、市では「子育て支援」を重点に置いて取り組んでいこうと考えている。子どもがいつまでも笑顔でいられるまちづくりを目指していきたい。委員の皆様には、ぜひ一步踏み込んだ審議等をお願いしたい。</p> <p>4. 委員自己紹介</p> <p>委員及び事務局の自己紹介</p> <p>5. 会長選出</p> <p>吉川市児童福祉審議会条例第5条に基づき、会長を選出。事務局案との意見があったため、会長として手塚崇子委員を提案し、承認・選出された。</p> <p>手塚会長あいさつ</p> <p>配付資料の確認</p>

	<p>会議録署名人の指名 田中委員と高井良委員を指名。委員了承。</p> <p>6. 議事</p> <p>(1) 子ども・子育て支援新制度及び吉川市子ども・子育て支援事業計画について</p> <p>【関係資料】</p> <p>資料1 子ども・子育て支援新制度について 吉川市子ども・子育て支援事業計画 吉川市子ども・子育て支援事業計画概要版 子ども・子育て支援新制度なるほどBOOK（内閣府・文部科学省・厚生労働省作成）</p> <p>(主な説明概要)</p>
事務局	<p>前委員8名中6名が入れ替わっているため、改めて平成27年4月からスタートしている「子ども・子育て支援新制度」の概要と平成27年3月策定の「吉川市子ども・子育て支援事業計画」について、説明を行った。</p> <p>(質疑応答) なし。</p> <p>(2) 吉川市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況報告について</p> <p>【関係資料】</p> <p>資料2 吉川市子ども・子育て支援事業計画進捗状況報告について（当日差し替え）</p> <p>(主な説明概要)</p>
事務局	<p>計画に記載している「量の見込み」及び「確保の内容」について、平成26年度の実績値や今年度の最新の進捗状況について報告。特に待機児童を示す「幼児期の学校教育・保育」と「放課後児童健全育成事業（学童保育事業）」について、詳細を説明。</p>

<p>田中委員</p>	<p>学童保育事業については、希望する児童全てを受け入れる方針で今後も受け入れ体制を整備していく旨、説明を行った。</p> <p>(質疑応答)</p> <p>一時預かり事業（幼稚園型を除く）について、計画の量の見込み、今年度の実績と昨年度の実績を比較してみると、数字がだいぶかけ離れている。これはどうしてか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今年度の実績については、途中経過の数字で報告しているので、最終的な数字は4月から3月までの累計値となる。</p> <p>なお、一時預かり事業（幼稚園型を除く）、子育て援助活動支援事業、子育て短期支援事業の量の見込みについては、2通りの方法で計算をしている。一つは、平成25年度に実施した利用意向等把握調査（ニーズ調査）結果から、制度を利用したいという声を最大限反映させているという点、もう一つは、これまでの実績の傾向等を考慮している点である。</p> <p>子育て短期支援事業については、これまでの実績がないため、利用意向等把握調査を最大限反映している。</p>
<p>田中委員</p>	<p>一時預かり事業については、もっと利用数が伸びてもいいのではないか。</p>
<p>熊木委員</p>	<p>吉川市の一時預かり事業のシステムを教えて欲しい。</p>
<p>事務局</p>	<p>非定型保育として週3日以内の利用が可能である。緊急保育の場合は最長で一か月間の利用が可能である。</p> <p>利用料金は公立保育所2か所が、3歳児未満で一日1,700円、3歳児以上で一日1,600円である。民間保育所については、コビープリスクールよしかわステーションが実施していて、利用料金は一時間500円である。保育時間はいずれも、</p>

竹内委員	<p>午前8時30分から午後4時30分までとなっている。</p> <p>一時預かりは利用者が沢山いるので、空きはないと聞いている。緊急枠を確保しておく必要もある。実績が増えないのは、繰り返し利用している人が多いからではないか。</p>
事務局	<p>保育所の一時預かり事業については、延べ人数でカウントしている。保育所入所基準について、平成26年度までは就労時間の下限を月80時間としていたが、平成27年度から月64時間に緩和している。このことで、週3日以内の利用者が減っているため、人数が伸びていないと考えられる。最終的には平成26年度実績と同じような数字になると思われる。</p> <p>計画の量の見込みは、利用意向等把握調査の声を反映させているので、実際に利用していない人も含まれていると考える。</p>
熊木委員	<p>吉川市の一時預かり事業の定員は多いのか。</p>
事務局	<p>一か所につき、一日10名の定員枠を設けている。10名の内訳については、非定型保育が7～8名、その他に緊急保育が1名、リフレッシュ保育が1名を想定している。保育士の配置の基準との兼ね合いがあるため、3人で1人の保育士が必要な0歳児が多くなってしまうと、定員枠も減ってしまうことになる。</p>
熊木委員	<p>週3日の利用者は先着順となるのか。</p>
事務局	<p>先着順である。週3日の利用者については、就労している方が多いため、ほぼ一年を通して枠を確保する機会が多い。</p>

竹内委員	地域型保育はどのような保育を指すのか。
事務局	<p>地域型保育は0歳～2歳児が対象となる保育施設で、定員は19名以下となっている。3歳以降については、保育所や幼稚園などの連携施設に引き継ぐシステムとなっている。</p> <p>吉川市では3か所の地域型保育施設がある。連携施設は5年以内に見つけることとなっているが、現在は連携施設がないので、既存の保育園に優先的に入れるような運用を行っている。</p>
竹内委員	地域型保育施設があることを知らなかったが、無認可保育所とは違うのか。
事務局	地域型保育は無認可保育所とは違い、市の認可保育施設であり、市が利用調整を行い、市が定めた保育料を利用者に支払ってもらっている。
市川委員	地域型保育施設のPR方法は。
事務局	保育所の入所案内の中に、認可保育所と同等の形で掲載し、周知している。
市川委員	<p>知らないという声が出たので、広報よしかわなどにも掲載するなど、手法を増やすのもいいのではないかと思う。</p> <p>また、全国的に保育士が不足していると聞くが吉川市はどうか。</p>
高井良委員	吉川団地保育園では、人材派遣を活用しているため、確保は出来ている。

手塚会長	臨時募集ではなく、派遣会社の利用なのか。
高井良委員	直接雇用より支出は増えるが、早く人員を確保できるという利点がある。
事務局	東京都では保育士の求人倍率は5倍と聞いており、その近郊でも集まりにくい状況にある。公立保育所でも臨時職員を常時募集している状況であり、県の登録制度やハローワークなども活用しているが、なかなか集まらなく苦勞している。
手塚会長	現場としては、臨時職員と派遣会社との差は何か感じている部分はあるのか。
高井良委員	派遣会社については、すぐに戦力になる利点がある。ただし、園の方針があるので、研修等は必要である。
小針委員	幼児期に接してくれる先生の存在は子どもにとってはとても大きなもので、大切な存在である。今後は保育をする者への支援も充実してもらいたい。
手塚会長	保育の量だけではなく、同時に質も高めてもらい、利用者も保育をする者も安心できる仕組みにしてもらいたい。また、保幼小の関係も充実してもらい、活用してほしい。
市川委員	今の小学校の多くが保育所や幼稚園との交流事業を実施していると思う。私の小学校でもそのような事業を実施している。
熊木委員	認定こども園については、吉川市はないということだが、今後、推進していくなどの考えはあるのか。

事務局	<p>認定こども園については、市としては推進していきたいと考えている。ただし、吉川市では1号認定の定員に余裕がある状態なので、新たに認定こども園をつくって、教育の定員枠を拡充することは出来ない。そのため、既存の幼稚園が認定こども園に移行するという方法しかないところであるが、まだ新制度1年目ということで幼稚園側の不安もあることから、現状では移行の声はまだ出ていないところである。市としては、毎年丁寧に説明していきたいと考えている。</p>
市川委員	<p>認定こども園は一時数が増えたが、その後は減っていると報道されている。近隣の自治体はどのような様子なのか。</p>
事務局	<p>認定こども園は幼稚園の園児数が大きく関係している。園児確保が難しい幼稚園が保育も兼ねることによって、人数を確保していると聞いている。特に住宅が多いところは園児数も確保できるため、認定こども園がないところが多い。例えば、三郷市のつくばエクスプレス沿線は住宅が多いため、認定こども園はない状況である。</p> <p>三郷市や越谷市でも新たに認定こども園が出来ているが、住宅が多い地域と、開発がもう出来ない昔からの地域があり、後者については、園児が獲得できないため、新たに認定こども園が出来ている状況がある。</p>
小針委員	<p>松伏町には新制度前から認定こども園がある。園長が園児の確保問題とは関係なく、子どもはみんな育てるという意識がある。先を見越した保育を考えている。</p>
手塚会長	<p>今の時代は祖父母が両親の子どもを見るのが難しくなっている。そういう意味でも子どもは地域で育てる、みんなで</p>

<p>五十嵐委員</p> <p>手塚会長</p>	<p>支え合うという考えが生まれているのだと思う。</p> <p>認定こども園は園児の確保のために始まっているところも実際にはあると思う。待機児童を減らそうということで実施しているところもあるし、子どもをみんなで育てようという思いで実施している園もある。私立はどれも方針が違うし、色々な考えがあるので、どれが良くてどれが悪いということはないと思う。</p> <p>今後、量の見込みと実績値との乖離があれば、この審議会の中で審議をしていくということで、今回は終了とする。</p> <p>7. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局からの連絡事項。 <p>(1) 審議会の今後について</p> <p>(主な説明概要)</p> <p>今年度は年2回の審議会開催を予定している。第2回については、年度末に開催予定（平成28年2月頃を予定）。</p> <p>今後の国の動向等にもよるが、議題は次の2点を予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・子育て支援事業計画について ・特定教育・保育施設の確認に係る意見聴取について <p>8. 閉会</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>平成27年12月2日</p> <p>署名委員 田中 公明 自署 署名委員 高井良 奈緒美 自署</p>	